

「とっどりの評判記」

第15話

なんでも

モダン都市・とっどりの横顔



こだまちゃん：わあ。きれいな絵ね。

やまびこ博士：これは、中村光風という人が原画を描いた、『鳥取市要覧』という、鳥取市の案内絵図だよ。久松山を中心に、大正15年（1926）頃の鳥取市と、周辺の地域を描いている。

こだまちゃん：上の方の白いところは鳥取砂丘ですね。千代川は今と違うところをながれているみたい。

やまびこ博士：このころ、まだ「鳥取市」というのはもともとの城下町くらいの範囲の小さな「市」だった。この絵に描かれている湖山や賀露なんかは独立した村だったんだよ。最近も町村合併が話題になっているけれど、現在の鳥取市も、周辺地域との合併を繰り返してできたものなんだ。

こだまちゃん：この絵は、後に鳥取市になる地域も含めて描かれたものなのね。

やまびこ博士：また、名所旧跡や学校・病院のような近代施設も細かく表示されている。中には、今では忘れられてしまった名所もたくさん含まれているんだ。

こだまちゃん：なんだか、ずいぶんにぎやかな雰囲気ですね。

やまびこ博士：この絵の描かれた大正時代末から昭和前期、鳥取市は江戸時代の遺産と、近代の新しい文化の交差する場所として栄えていたんだ。「山陰の首都」だとか「グレート鳥取」なんていわれていたんだよ。

こだまちゃん：「グレート鳥取」って、すごい言葉ですね。

やまびこ博士：自信にあふれる当時の人たちの姿がしのばれる言葉だね。

こだまちゃん：この絵に描かれた鳥取に、時間旅行してみたいなあ。

やまびこ博士：じゃあ次回、タイムマシンに乗って行ってみよう。

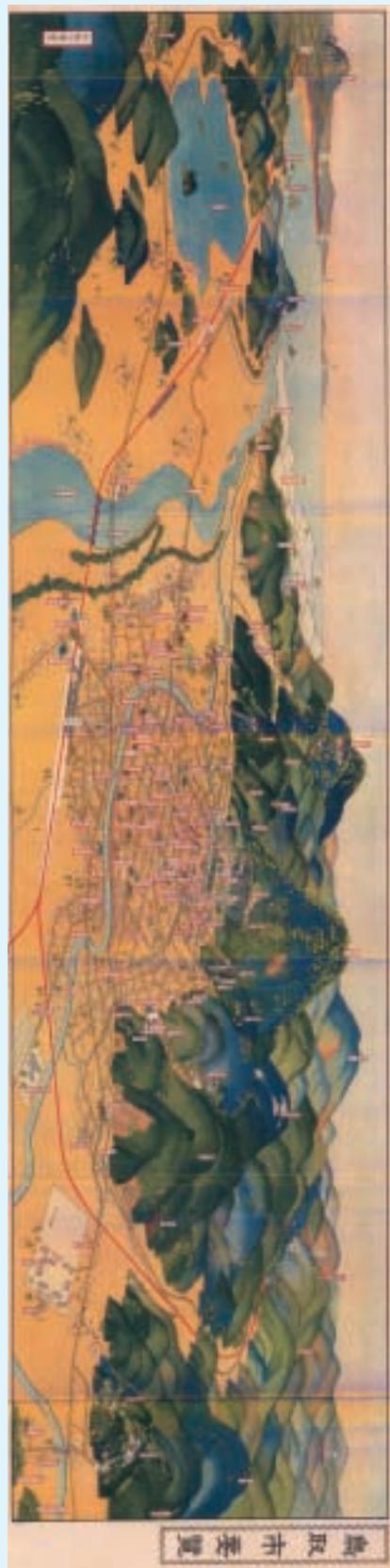
こだまちゃん：わあい、楽しみ！

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】

～やまびこ博士からのおわび～

先月号の「なんでも評判記」で、尾崎翠の生没年を誤って記載していました。

正しくは「明治29年～昭和46年」です。お詫びするとともに訂正させていただきます。



「鳥取市要覧」 中村光風・画 大正15年（1926） 鳥取市歴史博物館所蔵